

起業家の心 学生学ぶ

京大でフェア
架空の企業経営

小中学生や高校生、大学生が経営する架空の企業が集う「ユース・エンタプライズストリートフェア」が24日、京都市左京区の京都大百周年時計台記念館で開かれた。「社員」の学生らは、地元産の野菜などを使った食品や高齢者向けのサービスを来場者に熱心に売り込んだ。



展示ブースで自慢の商品やサービスについて、熱心に説明する学生たち(京都市左京区・京都大)

どが企画し、今回で14回目になる。京都をはじめ、大阪や群馬、広島など全国から26団体が

が展覧した。

会場には、奈良県の伝統野菜を使った駅弁や、群馬県館林産のニガウリ入りのホワイトチョコなどが並べられた。高齢者向けの買い物バスの運行計画を発表する団体もあった。

一休宗純ゆかりの京田辺市内で販売される「一休みそ」を使用したどら焼きを持ち込んだ同志社女子大2年の有田麻里さん(19)は、「生地がふわふわもちもちになるように何度も焼き直した。一休みそを知ってもらうきっかけになれば」と張り切っていた。(生田和史)